

# 安全データシート

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

化学品の名称: グリーンダイセン™ M 水和剤

発行日: 2018/11/12

印刷日: 2018/11/12

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M) SDSを熟読され、ご理解されるようお願いしております。このSDSは、職場における人の健康および安全性の保護、環境保護、緊急時の対応を支援する情報を製品の使用者に提供します。製品を使用される際は、主に製品容器に添付されている製品ラベルを参照する必要があります。

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: グリーンダイセン™ M 水和剤

推奨用途及び使用上の制限

特定用途: 殺菌剤

会社情報

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

100-6111

東京都千代田区永田町

2丁目11番1号

会社電話番号:

03-3519-3190

緊急連絡電話番号

24時間対応緊急連絡先: 0120-00-1017

緊急連絡電話番号: 0120-00-1017

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 - 区分 2B

皮膚感作性 - 区分 1

生殖毒性 - 区分 2

短期(急性)水生有害性 - 区分 1

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語：警告！

#### 危険有害性情報

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
眼刺激。

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。  
水生生物に非常に強い毒性。

#### 注意書き

##### 安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。  
取扱い後は皮膚をよく洗うこと。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
環境への放出を避けること。  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

##### 応急措置

皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。  
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。  
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。  
眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。  
漏出物を回収すること。

##### 保管

施錠して保管すること。

##### 廃棄

残余内容物・容器等は産業廃棄物として適正に廃棄すること。

#### 他の有害危険性

データなし

---

### 3. 組成及び成分情報

---

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名	CASRN	化審法番号	安衛法番号	濃度又は濃度範囲
マンゼブ	8018-01-7	(2)-1841	(2)-1841	80.0%

ヘキサメチレンテトラミン	100-97-0	(5)-1155	(5)-1155	2.4%
その他の成分	不特定			17.6%

---

## 4. 応急措置

---

### 必要な応急措置

#### 一般的アドバイス:

応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服(耐薬品手袋、飛沫防護)を使用する。ばく露する可能性がある場合は、第8項の保護具の情報を参照。

**吸入:** 新鮮な空気のある場所へ移動させる。呼吸停止の際は救急隊または救急車を呼び、人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

**皮膚接触:** 汚染された衣類を脱がせる。石鹼と大量の水で15~20分間皮膚を洗う。医師に治療のアドバイスを求めること。衣類は洗濯してから再使用する。靴などの汚染除去できない革製品は適切に廃棄する。

**眼に入った場合:** 眼を開いたまま15~20分水でゆっくりと優しく洗い流す。コンタクトレンズを装着している場合は、5分洗眼してからはずし、さらに洗眼を続ける。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。作業場内に適切な緊急用洗眼設備を設置すること。

**飲み込んだ場合:** 緊急医療措置は必要ない。

#### 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状:

上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目11の有害性情報に記載されている。

#### 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

**医師に対する特別な注意事項:** 喘息の様な(反応性気道)症状を起こすことがある。気管支拡張薬、去痰薬、鎮咳薬およびコルチコステロイドが有効なことがある。特別な解毒剤はない。ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、この安全データシートのほか、できれば製品の容器またはラベルを手元に用意すること。過剰暴露を繰り返すと、既存の肺疾患が悪化することがある。

---

## 5. 火災時の措置

---

**消火剤:** 水。 粉末消火器。 二酸化炭素消火器。

**使ってはならない消火剤:** 泡

**特有の危険有害性**

**有害燃焼副産物:** 火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。 燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 硫黄酸化物類。 硫化水素。 一酸化炭素。 二酸化炭素。 窒素酸化物。

**異常な火災および爆発の危険:** 火災の際、ガスの発生により容器が破裂することがある。 粉塵の蓄積を避ける。 空気中に分散した粉塵は爆発の危険性がある。 着火源を最小限にする。 粉塵層が高温に曝されると自然発火することがある。

#### 消防士へのアドバイス

**消火手順:** 人々を避難させる。 火を隔離して関係者以外の立ち入りを禁止する。 環境に対する影響を最小限にするため、制御焼却を検討する。 完全に水で濡らして冷却し、再発火を防ぐ。 火が消えて再発火の危険がなくなるまで、水スプレーを用いて火に曝された容器および火災の影響を受けた領域を冷却する。 保護された場所から、あるいは十分に安全な距離から消火に当たる。 無人ホースホルダーまたはモニターノズルの使用を考慮する。 安全弁装置から聞こえる音が大きくなったり、容器の色が変わったりした時は、直ちに全ての人をその場所から退避させる。 小規模の火災には、小型の粉末消火器または二酸化炭素消火器を使用する。 消火剤の激しい使用により粉塵爆発の危険性がある。 危険を伴わずにできるのであれば、容器を火災場所から移動させる。 可能なら消防水の流出を防ぐ。 消防水の流出を防げないと環境破壊を引き起こす可能性がある。 本 SDS の「漏出時の措置」および「環境影響情報」の項を参照する。

**消火を行う者の保護:** 陽圧式自給式呼吸器 (SCBA) および防火服 (防災ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む) を着用する。 消火活動の際、この物質との接触を避ける。 接触の可能性がある場合は、耐薬品性の防火服と自給式呼吸器を使用する。 もしこれらが無い場合は、自給式呼吸器付き耐薬品性の全身服を使用し、離れた場所から消火活動する。 火災後または火災ではなく清掃時に用いる保護具については、関連の項を参照する。

---

## 6. 漏出時の措置

---

**人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:** 場所を隔離する。 不必要な人や保護具を装着していない人の、その場所への立ち入りを禁止する。 項目 7 の取扱い注意事項を参照。 流出物の風上にいること。 流出した物質は、滑りやすく危険である。 漏れたり流出した場所を換気する。 適切な保護具を用いること。 追加情報として、第 8 項、暴露防止及び保護措置を参照。

**環境に対する注意事項:** 自然の水路に漏洩するか放出されると、水生生物を殺す可能性が高い。 土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。 項目 12 の環境影響情報を参照。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材:** 可能なら、漏出物は回収する。 少規模の漏洩: 掃き取る。 正しくラベルの貼ってある適切な容器に回収する。 大規模の漏洩: 回収支援が必要な場合、弊社に連絡する。 追加情報として、項目 13 の廃棄上の注意を参照。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

**取扱い:** 子供の手の届かないところに置くこと。熱、火花、炎から遠ざける。飲み込まない。眼、皮膚、衣服との接触を避ける。皮膚への長期的ないし反復的な接触を避ける。粉じんやミストの吸入を避けること。取り扱った後は十分に洗うこと。容器を閉じて保管すること。使用時には換気を十分に確保する。製品を安全に取り扱うには、整理整頓と粉塵の管理が必要である。項目8のばく露防止及び保護措置を参照。

**保管:** 乾燥した場所に保管すること。納品時の容器でのみ保管する。食品、食材、医薬、飲料水の近くに保管しない。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 許容濃度

ばく露限界値が存在する場合は以下に記載されている。ばく露限界が表示されていない場合は適用しない。

化学名	国際規制	リストのタイプ	数値/注記
マンゼブ	US WEEL	TWA Total	1 mg/m <sup>3</sup>
	US WEEL	TWA	皮膚感作性物質
	安衛法(管理濃度)	ACL	0.2 mg/m <sup>3</sup> , マンガン
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M	0.2 mg/m <sup>3</sup> , マンガン
ヘキサメチレンテトラミン	Dow IHG	TWA	10 mg/m <sup>3</sup>

製造、混合作業、および包装作業に従事する労働者に対する推奨。散布作業者及び取扱者はラベルを読み、適切な防護具および防除服を装着すること。

### 曝露防止

**工学的制御:** 空气中濃度が許容濃度以下に保てるよう制御する。許容濃度が設定されていない場合、適切な全体換気を行う。一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

### 保護具

**呼吸用保護具:** 許容濃度を超える可能性がある場合は、呼吸器用保護具を着用する。許容濃度が未設定の場合、認可された呼吸器用保護具を使用する。特定の作業や物質の空气中濃度の可能性に応じて、空気清浄呼吸器又は陽圧送気マスクを選定する。緊急時には、認可された陽圧自給式呼吸器を使用する。

以下は効果的な空気清浄呼吸器の種類である: 防塵フィルター付き有機ガス用。

**手の保護具:** この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。ポリ塩化ビニル(PVCまたはビニル)。ネオプレン。ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリルまたはNBR)。注意: 特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある: 取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要因(切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護)、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

**II 目の保護具:** ケミカルゴーグルを使用する。

**皮膚及び身体の保護具:** この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。作業内容に応じて、顔面シールド、長靴、エプロンまたは全身防護服などの保護具を選択する。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

---

### 外観

物理的状态	粉末
色	緑から青
臭い	不快臭
臭いの閾値	データなし。
pH	6.9 1% pH 電極 (1%水溶性懸濁液)
融点	データなし。
凝固点	適用不可。
沸点 (760 mmHg)	適用不可。
引火点	密閉式引火点試験 固体には該当しない
蒸発速度 (フイルメート=1)	適用不可。
燃焼性 (固体、気体)	データなし
爆発範囲の下限	適用不可。
爆発範囲の上限	適用不可。
蒸気圧	適用不可。
相対蒸気密度 (空気=1)	適用不可。
比重・相対密度 (水=1)	データなし。
水への溶解度	データなし。
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	適用不可。
分解温度	データなし。
動粘度	データなし
爆発特性	データなし
酸化特性	データなし
かさ密度	0.408 g/cm <sup>3</sup>
分子量	データなし

注記: 上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

---

## 10. 安定性及び反応性

---

反応性: データなし

化学的安定性: 高温時に不安定。

危険有害反応可能性: 重合は起こらない。

**避けるべき条件:** 活性成分は高温で分解する。分解によるガスの発生が密閉システム内の圧力を上昇させる。静電気の放電を避ける。

**混触危険物質:** 以下との接触は避ける: 酸。酸化剤。

**危険有害な分解生成物:** 分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 硫化水素。硫黄酸化物類。分解時に有毒ガスが放出される。

---

## 11. 有害性情報

---

本項にはデータが存在する場合に毒性情報が記載される。

### 急性毒性

#### 急性毒性 (経口)

誤飲した場合でも、毒性は非常に低い。少量を誤飲しても有害な影響があるとは予見されない。

類似物質について

LD50, ラット, > 5,000 mg/kg

#### 急性毒性 (経皮)

長時間の皮膚接触で、有害量を吸収することはないであろう。

類似物質について

LD50, ラット, > 5,000 mg/kg

#### 急性毒性 (吸入)

粉塵は上部呼吸器官(鼻や喉)と肺を刺激するかもしれない。長期間粉塵に過剰暴露すると、有害影響を起こすことがある。

製品として。LC50 は決められていない。

有効成分について:

LC50, ラット, 4 h, 浮遊微粉末, > 5.14 mg/l

### 皮膚腐食性及び皮膚刺激性

長期間接触すると、局所発赤を伴う軽度の皮膚刺激作用を起こすことがある。

### 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

中等度に眼を刺激することがある。

角膜損傷は起こらないであろう。

### 感作性

有効成分について:

モルモットを用いた試験では、アレルギー性皮膚反応を示した。

少量成分について:

ヒトでアレルギー性皮膚反応を示した。

呼吸器感受性：  
関連のあるデータは得られていない。

#### 特定標的臓器毒性、単回ばく露

使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

#### 特定標的臓器毒性、反復ばく露

有効成分について：  
動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：  
甲状腺。  
肝臓。

#### 発がん性

有効成分について： ラットに対する発がん性試験において高濃度で発がんの恐れが疑い

長期（一生涯）にわたる反復暴露で影響が認められた。

#### 催奇形性

有効成分について： 実験動物において、母体毒性を示す用量でのみ催奇形性が認められた。 実験動物において、母体毒性を示す用量で胎児毒性が認められた。

#### 生殖毒性

有効成分について： 動物試験では、生殖を阻害しなかった。 動物試験では、繁殖性を阻害しなかった。

#### 変異原性

有効成分について： インビトロ遺伝毒性試験の結果は、圧倒的に陰性が多かった。 動物遺伝毒性試験は陰性だった。

#### 吸引性呼吸器有害性

物性上、吸引性呼吸器有害性は低い。

---

## 12. 環境影響情報

---

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

#### 生態毒性

##### マンゼブ

##### 魚類に対する急性毒性

物質は、水生生物に対してきわめて高い急性毒性を示す（最も感受性の高い種では LC50/EC50<0.1 mg/L）。  
LC50, *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス), 96 h, 0.088 mg/l

##### 無脊椎動物に対する急性毒性



EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 48 h, 0.073 mg/l

#### 藻類/水生植物に対する急性毒性

EyC50, *Scenedesmus capricornutum* (淡水産藻), 120 h, 0.044 mg/l

#### 地上生物に対する毒性

物質は事実上、鳥に対して急性毒性を示さない(LD50 > 2000 mg/kg)。

物質は、混餌投与すると、事実上、鳥に対して毒性を示さない(LC50 > 5000 ppm)。

経口 LD50, *Colinus virginianus* (コリンウズラ), > 3200mg/kg 体重

経口 LD50, *Apis mellifera* (ミツバチ), 48 h, 死亡率, > 100µg/ハチ

接触による LD50, *Apis mellifera* (ミツバチ), 48 h, 死亡率, > 100µg/ハチ

#### 土壌生息生物類に対する毒性

LC50, *Eisenia fetida* (ミミズ), 14 d, > 299 mg/kg

### ヘキサメチレンテトラミン

#### 魚類に対する急性毒性

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 > 100 mg/L)。

LC50, *Pimephales promelas* (ファットヘッドミノウ), 流水式試験, 96 h, 49,800 mg/l, OECD 試験ガイドライン 203

#### 無脊椎動物に対する急性毒性

EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 止水式試験, 48 h, 36,000 mg/l, OECD 試験ガイドライン 202

#### 藻類/水生植物に対する急性毒性

ErC50, *Selenastrum capricornutum* (緑藻), 14 d, 3,000 mg/l

最大無影響濃度, *Selenastrum capricornutum* (緑藻), 14 d, 1,500 mg/l

#### 細菌に対する毒性

最大無影響濃度, 2 h, > 100 mg/l

### その他の成分

#### 魚類に対する急性毒性

関連のあるデータは得られていない。

### 残留性・分解性

#### マンゼブ

**生分解性:** 土壌環境における分解は数日から数週間以内であると予期される。 厳格な OECD 試験において、この物質は易分解とは分類されないが、しかしこれらの結果は、この物質が環境中で生分解しないと必ずしも意味するものではない。

#### 水中での安定性 (半減期)

加水分解, 半減期, 17 h, pH 7, 半減期温度 25 ° C

#### 光分解性

試験タイプ: 半減期 (間接光分解)

感作性物質: OH ラジカル

大気中半減期: 0.05 d

方法: 推定値。

#### ヘキサメチレンテトラミン

生分解性: 物質は易分解性である。OECD 易分解性試験に合格している。

10-day Window: 非該当

生分解: 54 - 97 %

曝露時間: 28 d

方法: OECD テストガイドライン 301C あるいは同等のもの

理論酸素要求量: 3.2 mg/mg

#### その他の成分

生分解性: 関連のあるデータは得られていない。

#### 生体蓄積性

#### マンゼブ

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または Log Pow < 3)

n-オクタノール/水分配係数(log Pow): 1.33 推定値。

生物濃縮因子 (BCF): 2.1 - 3.1 推定値。

#### ヘキサメチレンテトラミン

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または Log Pow < 3)

n-オクタノール/水分配係数(log Pow): -4.15 推定値。

#### その他の成分

生体蓄積性: 関連のあるデータは得られていない。

#### 土壤中の移動性

#### マンゼブ

土壤中移動性が小さい(Koc 500~2000)。

分配係数 (Koc): 1000 推定値。

#### ヘキサメチレンテトラミン

土壤中移動性がきわめて大きい(Koc 0~50)。

分配係数 (Koc): < 1 推定値。

#### その他の成分

関連のあるデータは得られていない。

#### オゾン層への有害性

#### マンゼブ

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

### ヘキサメチレンテトラミン

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

### その他の成分

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

### 他の有害影響

### マンゼブ

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性 (vPvB) があるとは考えられていない。

### ヘキサメチレンテトラミン

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) は評価されていない。

### その他の成分

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) は評価されていない。

---

## 13. 廃棄上の注意

---

**廃棄方法:** 廃棄物や容器の廃棄が製品ラベルの指示通りに行えない場合は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。以下の情報は購入時の状態のときみに適用される。使用后或いは汚染された場合、特性や記載事項が適合しない可能性がある。適切な法律に則ってきちんとした廃棄物の識別と廃棄方法を定める。生じた物質の毒性や物理的性質を決定するのは廃棄物排出者の責任である。内容物や容器を廃棄する場合は、国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄する。

---

## 14. 輸送上の注意

---

### 道路及び鉄道輸送に関する分類 (ADR/RID):

国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N. O. S. (MANCOZEB)
国連番号	UN 3077
国連分類	9
容器等級	III
環境危険有害性	MANCOZEB

### 海上輸送に関する分類 (IMO-IMDG):

国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N. O. S. (MANCOZEB)
国連番号	UN 3077
国連分類	9
容器等級	III

海洋汚染物質(該当・非該当) 該当  
 MARPOL 73/78 の Annex I または II および IBC または IGC コードに従い積荷を運搬する。 Consult IMO regulations before transporting ocean bulk

航空輸送に関する分類 (IATA/ICAO):

国連輸送名 Environmentally hazardous substance, solid, n. o. s. (MANCOZEB)  
 国連番号 UN 3077  
 国連分類 9  
 容器等級 III

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送分類は容器の大きさや国や地域の法令により異なることがあります。追加情報は、弊社の営業担当者またはカスタマーサービスより入手してください。この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。

15. 適用法令

労働安全衛生法

安衛法 特化則 第2類物質 特定第2類物質

成分	CASRN
マンゼブ 変異原性が認められた化学物質	8018-01-7

成分	CASRN
ヘキサメチレンテトラミン	100-97-0

化管法 (PRTR 法)

成分	CASRN	濃度又は濃度範囲
マンゼブ	8018-01-7	80.0%
ヘキサメチレンテトラミン	100-97-0	2.4%

水質汚濁防止法

化審法 - 既存化学物質及び新規化学物質リスト (ENCS)

本製品は防腐剤/殺虫剤用途として使用され、当該適用法令の対象である。本剤は化学品登録求から免除される成分を含んでいる。本製品の意図的成分は化学品登録されていないが、免除される用途のみに使用されるからである。

## 16. その他の情報

### 有害危険性評価システム

#### NFPA

	健康	可燃性	不安定性
	1	0	1

### 改訂

ID 番号: 11114722 / A150 / 発行日: 2018/11/12 / 版番号: 3.0

DAS コード: GF-1349

最新の改訂事項は、この文書全体にわたって、左側の余白に太字の二重線で強調してある。

### 凡例

ACL	管理濃度、基準濃度
Dow IHG	ダウ社内ガイドライン
OEL-M	許容濃度
TWA	8-hr TWA
US WEEL	USA. Workplace Environmental Exposure Levels (WEEL)
安衛法 (管理濃度)	作業環境評価基準、健康障害防止指針
日本産業衛生学会 (許容濃度)	日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I. 化学物質の許容濃度

### その他の略語の全文

AICS - オーストラリア化学物質インベントリー; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; CPR - 管理製品規則; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト (カナダ); ECx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存および新規化学物質リスト; ErCx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 化学品の分類および表示に関する世界調和システム; GLP - 優良試験所規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50% 阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法 (日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50% 致死濃度 (半数致死量); LD50 - 50% 致死量 (半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n. o. s. - 他に規定のない限り; Nch - チリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性 (物質); PICCS - フィリピン化学物質インベントリー; (Q) SAR - (定量的) 構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TCSI - 台湾化学物質インベントリー; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法 (米国); UN - 米国; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社は、お客様や(M)SDSの受領者の皆様が、この(M)SDSの掲載データや、この製品に伴う危険有害性を認識し理解するために、(M)SDSを慎重に検討され、必要に応じて適宜しかるべき専門家にご相談されるようお願いしております。掲載内容は誠意をもって提供したものであり、上述の発効日の時点で正確なものであると考えております。ただし、明示および黙示の保証を行うものではありません。法令の要求事項は、改正されたり、地域により異なることがあります。使用に関する適用法令の遵守は使用者の責任です。ここに掲載された情報は出荷した製品についてのもので、製造会社は製品の使用条件について関知するところではありませんので、製品の安全な使用条件は、使用者の責任において決定して下さい。各製造会社固有の(M)SDSなどの情報源が増加していますが、弊社は弊社以外の製造会社から入手した(M)SDSに関しては一切責任を負いません。他の情報源から入手した(M)SDSをお持ちの場合や、お手元の(M)SDSが最新版であるという確信が持てない場合は、弊社にご連絡ください。

JP